

# SRHRを女性・平和・安全保障(WPS)アジェンダに統合する ～持続的平和のためのつながりの構築～

安全保障理事会決議1325(2000年)の採択以来、女性・平和・安全保障(WPS)アジェンダは、平和構築における女性の役割に光を当て進展を遂げてきましたが、昨今の地政学的状況の中での分極化の加速、軍事費の増加、紛争と危機の拡大、さらにこれまでWPS推進を担ってきた機関やネットワークの弱体化・解体の試みが顕著になっていることが懸念されます。一方、紛争下や被災地での性暴力や妊産婦の死亡が増大しているにもかかわらず、その対応に欠かせないセクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(SRHR)は、依然として各国・地域の行動計画に十分組み込まれていません。ジェンダーに基づく暴力(GBV)関連ケア・サポートを含むセクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス(SRH)サービスやメンタルヘルスケアは紛争下の女性の命と尊厳を守り、人間の安全保障や長期的な平和実現の基盤を築くもので、WPS促進に欠かせない必要最低条件です。

## SRHRとWPSの連携はなぜ重要か

### 1. 紛争が増幅するSRHRのリスク — WPSの枠組みでの対応が必要

- 紛争、強制移住、人道危機の状況ではSRHRのリスクが高まります。
- ・ 女性や女兒への性暴力、強制妊娠、児童婚(早すぎる結婚)のリスクが高まり、妊産婦死亡率が上昇する
  - ・ 保健医療システムが破壊されるかアクセス不能となり、避妊具(薬)、安全な中絶、産前ケア、性暴力関連ケア・サポートが受けられなくなる

SRHRとWPSの関連性は、性暴力サバイバーにSRHを含む包括的保健サービスを提供することの重要性を強調し、SRHをWPSの枠組みに組み込んだ国連安保理決議2106(2013)の採択で明確になりました。しかし、この枠組みの理解は進まず、各国のWPS国内行動計画(NAP)に組み込まれていません。SRHRとWPSの連携は、女性が紛争時に直面する脆弱な状況や権利擁護、特有のニーズへの対応を全面的にWPSの枠組み内で網羅することを可能にします。

### 2. SRHRはジェンダー平等と女性のエンパワーメントの基盤

女性の平和構築や紛争後の統治参画は以下が保障されている場合に可能。

- ・ 女性が自身の身体をコントロールできる
- ・ リプロダクティブ・ヘルスケアサービスにアクセス可能である
- ・ GBVから守られた安全な状況にある

**SRHR は、WPSアジェンダの支柱である、女性の政治的、社会的、経済的エンパワーメントに不可欠です。**

### 3. SRHRをWPSに組み込むと平和構築の成果が向上

- ・ 女性が参加し、権利に基づくアプローチをとる和平合意やプロセスは、より耐性が高く包摂的である
- ・ 人々の健康や人権(SRHRを含む)への投資は、コミュニティの回復力を高め、制度への信頼を取り戻し、社会の不安定性の根本的な要因に対処する

SRHRとの連携は副次的なものではなく、持続的な平和実現に有効な手段です。

### 4. SRHRが欠如したWPSは周縁化された人びとを取り残す

十代の女性、LGBTQI+の人びと、難民、障害のある女性などの周縁化されたグループは、さまざまな障壁により、紛争下ではSRHRサービスをさらに受けづらくなります。WPSにSRHRを組み込むことで、国際基準(CEDAW、ICPD等)に準じた、すべての人の権利を支持する包摂的な対応を確実にすることができます。

## SRHRがなぜ重要なのか — 現地の状況

### イエメン



イエメンは、妊産婦死亡率、児童婚やGBVの件数が極めて高く、世界でも最も人道危機が深刻な国のひとつです。人道支援資金がSRHRのニーズに充てられることはほぼありません。

### ガザ(パレスチナ)



ガザの女性と女兒は、日々、命と健康を脅かされ、妊産婦ケア、避妊具(薬)、GBV対応サービスへのアクセスが制限されています。保健医療システムは崩壊寸前であり、緊急対応ではSRHRは優先されていません。

### シリア



長びく紛争は、シリアの医療インフラに大きな打撃を与えています。移住を強制された数百万人も女性や女兒がセクシュアル・リプロダクティブ・ヘルスケア、安全な出産、生理や衛生面での支援、GBVからの保護を必要としています。

### スーダン



紛争が保健医療システムを破壊しています。移動中、または難民キャンプで生活する女性や女兒は、SRHRの危機に直面しています。紛争やそれに伴う強制移住が性的暴行、避妊具(薬)の不足を引き起こしています。

### レバノン



経済の崩壊から難民の重圧まで、レバノンの幾重にも重なる危機は、保健医療システムに多大な負荷をかけています。女性や女兒のGBV被害件数やメンタルヘルスの問題は急増しているにもかかわらず、必要不可欠なサービスへのアクセスは減少しています。



## アクションと成果を生み出す、アラブ地域のWPS/SRHR推進のハブ

アラブ連盟とそのメンバー諸国、国際家族計画連盟(IPPF)、その他主要域内パートナーやグローバル・パートナーが参加した会議で、女性・平和・安全保障(WPS)の枠組みにセクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(SRHR)を確実に組み込んで推進するための「地域ハブ」が設立されました。このハブは、技術的および戦略的に機能し、調整役を担う共同プラットフォームで、域内で以下へのアクセスの拡大と促進を目的とします。

- SRHRサービス
- 包括的性教育(CSE)
- 心理社会的支援
- 人道危機下、脆弱な状況に置かれた女性や女兒に向けたサービス

### ➔ ミッション

人道危機下および脆弱な環境において、女性と女兒のSRHRを向上させるための技術的、戦略的、協働的なアラブ地域の推進プラットフォームとしての役割を果たす。

### ➔ ビジョン

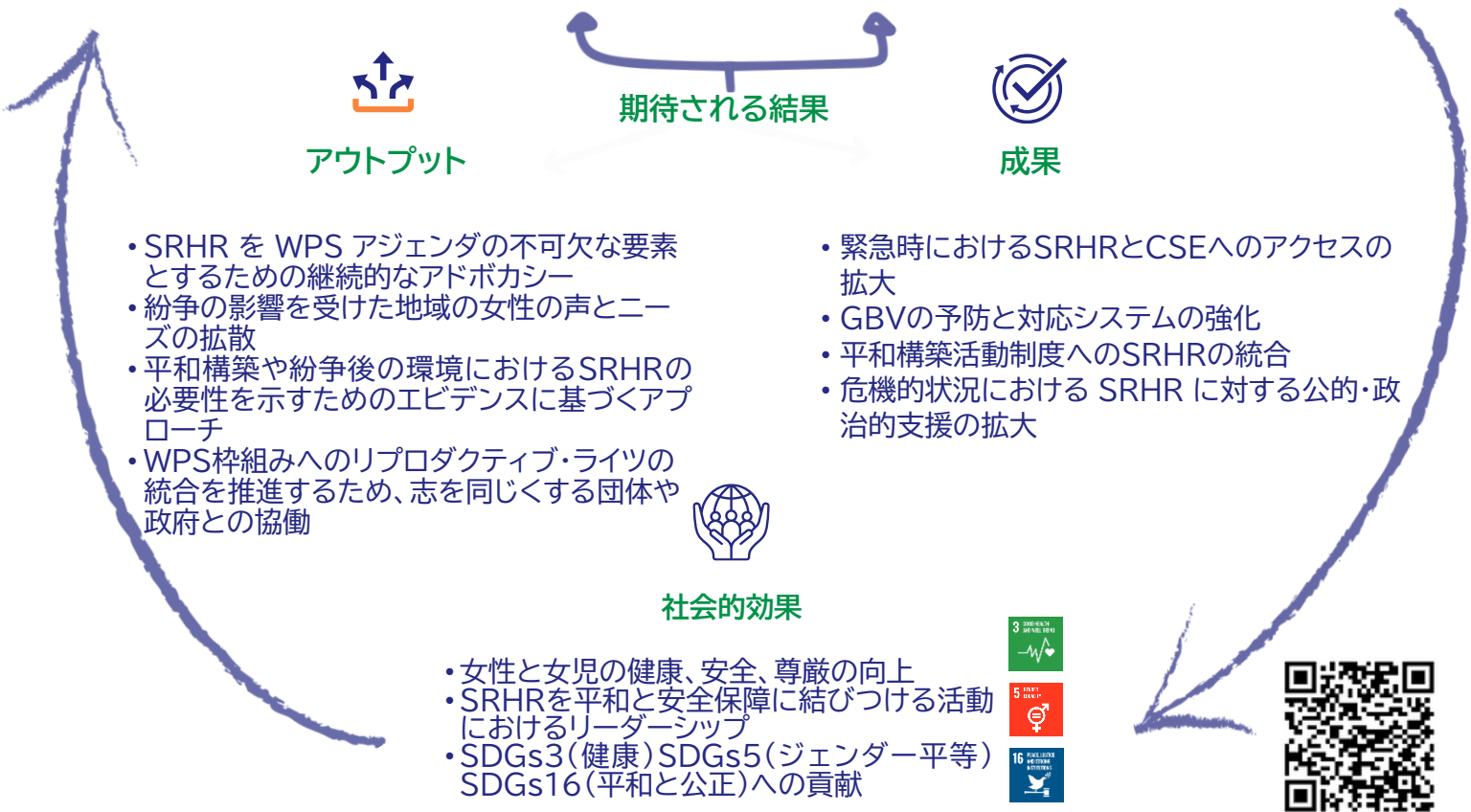
紛争時であっても女性や女兒が暴力を受けることなく権利を十分に享受し、安全、健康に、尊厳を失わずに暮らせる地域社会

### ➔ 主な活動

- テーマ別作業部会の設置(SRHR、CSE、メンタルヘルス)
- SRHRとWPSを統合したCSE資料の作成
- 最前線で活動するスタッフへのトラウマ・インフォームド・ケア(TIC)とジェンダーに基づく暴力(GBV)に関する研修の実施
- 各国政策への統合に向けての政府・関係機関への働きかけ
- 地域へのアドボカシーと知識共有の主導

### ➔ 戦略的目標

1. 技術的調整：SRHR、CSE、メンタルヘルスをWPSに統合するためのガイダンス
2. 政策提言：国や地域のWPS行動計画にSRHRを組み込むための働きかけ
3. 能力開発：最前線で活動するスタッフへのGBV・TIC対応研修の実施
4. エビデンスと学習：政策やプログラム作成のためのデータ構築
5. 資金調達：インパクトのあるプログラム実施のための持続可能な資金確保



アウトプット

期待される結果

成果

社会的効果

- SRHR を WPS アジェンダの不可欠な要素とするための継続的なアドボカシー
- 紛争の影響を受けた地域の女性の声とニーズの拡散
- 平和構築や紛争後の環境におけるSRHRの必要性を示すためのエビデンスに基づくアプローチ
- WPS枠組みへのリプロダクティブ・ライツの統合を推進するため、志を同じくする団体や政府との協働

- 緊急時におけるSRHRとCSEへのアクセスの拡大
- GBVの予防と対応システムの強化
- 平和構築活動制度へのSRHRの統合
- 危機的状況におけるSRHRに対する公的・政治的支援の拡大

- 女性と女兒の健康、安全、尊厳の向上
- SRHRを平和と安全保障に結びつける活動におけるリーダーシップ
- SDGs3(健康)SDGs5(ジェンダー平等)SDGs16(平和と公正)への貢献

連帯すれば、危機的状況下においても女性や女兒が取り残されることのない社会の構築は可能です！